

伊勢物語の創作性についての研究

国語班：南野 誠也

1. はじめに

私たち国語班は、科目別に分かれて研究を行う一環として、伊勢物語を読み研究することにした。初めは班員全員で読んで解釈を行っていたが、その中で実在の人物、在原業平をモチーフに描かれた伊勢物語と史実との乖離に着目し、各々に分かれて研究を行うことになった際、そのテーマとして選択した。

2. 伊勢物語の概要

- ・全百二十五段で構成される。
- ・各段に和歌が一つ、ないしはそれ以上詠まれている、歌物語である。
- ・主人公は在原業平とされ、基本的にその人生を年代で並べた構成である。
※業平と関わらない段もある。
- ・作者は未詳で、様々な人物が成立に携わったとされる。

3. 伊勢物語の中の創作性について

単に在原業平の人生を描いた物語ではなく、明確な創作が含まれていた。その創作を特徴から二つに分類した。

(1) 主人公、在原業平のキャラクター性による創作

物語中で業平の名が使われることは無く、「男」などと表記されている。後述のように明らかに業平と出自が異なる人物の描かれる段も存在する。それでも主人公が業平とされているのは、伊勢物語の骨格を形作るストーリーの「男」の役職や出自に依るものである。

このように名前が明記されないことで、読者の主人公の印象が固定化されず「在原業平」というキャラクターを付与する効果を生み出している。

そのキャラクターというのが「風流男」という当時の人々の興味・関心を掻き立てるものであり、伊勢物語全体の雰囲気を作り上げている。

また、物語的な面白さを生み出すために行われる創作にも様々な手法があり大きく以下の三つが見られた。

- ① 死後の出来事に業平が登場する。
- ② 語られる人物が業平であることがことさらに強調される。
- ③ 大袈裟な表現を用いたおとぎ話めいた段がある。

(2) 業平の登場しない挿話

地理的、時代的な整合関係を持って挿入される、業平が登場しない物語を大きく次の二つに分類した。

① 東国の物語

田舎の人々が登場する物語では、都と田舎の生活を対比させることで前者のすばらしさを強調する他、また両者に共通する当時、普遍的であった男女の在り方を表現している。

② 業平ゆかりの人物の物語

登場人物を増やすことで業平を際立たせたり、物語的な膨らみを持たせている段も見られた。

また、「詠み人知らず」や他の歌人の和歌を主に田舎の人や業平の歌への返歌などとして用いて物語を形成する表現が多く見られた。

4. 考察

前段で述べたような創作を用いることで、単に史実をなぞるだけではない物語的な面白さが生まれ、当時の人々の興味関心をそそるような文章になったと考えている。また、同時に、多く男女関係を題材としたことに依る親しみやすさから、現代に生きる私達に当時の人々の考え、風習を伝える優れた文章となっているのではないか。

5. 今後の課題

時間に追われる研究であり、伊勢物語本文を多く読むことができなかったことが悔やまれる。今後はこの論文で述べてきた事について、内容を詰めていくことを課題としていきたい。今研究を行った経験を踏まえて、各段の並びや、業平に寄せられた「風流男」のイメージを掴むことを目標にもう一度本文を読み返したい。

参考文献 「日本古典文学全集」 小学館
「校註 伊勢物語」 笠間書院